

応用藻類学研究室

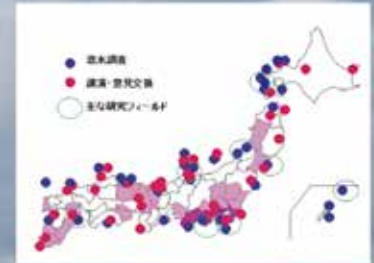
海藻の生理・生態学、養殖に関する研究、海藻群落の分布、構造および機能、植食動物の生態など様々な面から藻場生態系の保全や藻場造成、回復に関する研究を行っています。

研究室スタッフと研究テーマ

藤田 大介 (FUJITA, Daisuke)

- 磯焼け維持機構の解明と回復技術に関する研究
- 海藻植生の分布、構造および維持機構に関する研究
- 有用海藻の増養殖および利用技術に関する研究

【キーワード】 磯焼け、藻場、有用海藻、植食動物、海洋深層水



磯焼け対策ガイドライン、磯焼け対策シリーズを刊行、全国各地の研究者・漁業者・市民・学生と藻場を調べ、藻場回復に取り組んでいます。

<担当授業科目>

学 部：海と生命、フレッシュマンセミナー、海洋植物学、藻類生態学、海洋生物学実習、応用藻類学、応用藻類学実習

大学院：藻類特性学、藻類機能学、応用藻類学特論

<卒業生の進路>

地方職員（山形県、石川県、東京都、長崎県、水戸市、館山市）、全漁連、全国豊かな海づくり推進協会、日本気象協会、中小企業基盤整備機構、八景島シーパラダイス、ベネッセコーポレーション、(財)水産土木建設技術センター など



世界の沿岸で基礎生産を担う海藻。コンブ、ホンダワラ、テングサなどは海の中で藻場を形成し、魚介類を育みます。近年、海況変動や乱獲・乱開発のために、藻場が減少する「磯焼け」が全国各地で深刻化しています。豊かな沿岸を取り戻すためには、藻場の回復が必須です。海藻のお世話になっているのは魚介類だけではありません。日本人の食卓には、焼きノリやワカメの味噌汁、ヒジキの煮物や海藻サラダ、昆布だしの鍋料理など、海藻の料理が欠かせません。今、世界的な健康食ブームで海藻が見直されています。研究室ではこれらの海藻を培養して生活史や生理特性を明らかにしたり、実際に養殖試験を行って生長を調べたり、潜水して群落の構造や動物との関係を調べたり、藻場回復実験を行ったりしています。